

## 会 議 録

1 会議名	第 1 回 南砺市社会教育委員会
2 議題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 報告事項</li> <li>(1) 平成 28 年度南砺市教育委員会の取り組みについて</li> <li>(2) 南砺市教育委員会の組織について</li> <li>(3) 平成 28 年度教育委員会当初予算概要について</li> <li>(4) 生涯学習（前期）事業について</li> <li>(5) スポーツ関係事業について</li> <li>(6) 社会教育・体育施設関係について</li> </ul> <p>当面の主な行事予定について</p>
3 開催日時	平成 28 年 5 月 31 日（金）午後 14 時 00 分から午後 15 時 21 分
4 開催場所	南砺市役所井波庁舎 3 階 301 会議室
5 会議出席者	<p>南砺市社会教育委員 出席 13 人/全 16 人</p> <p>委員：梅原雅美、脊戸川康子、武田和一、中谷有秀、石黒公一、横山一乃、山田清志、松永外志子、坂本博昭、高瀬英明、橋本正俊、城寶マチエ、牧信二</p> <p>事務局：教育長、教育部長、生涯学習スポーツ課長、こども課長、教育総務課長補佐、生涯学習スポーツ課長補佐、生涯学習係長、生涯学習係主事</p>
6 欠席者	委員：溝口秀勝、小原勉、川原正彦
7 傍聴者	無し
8 議事内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開会 工藤生涯学習スポーツ課長</li> <li>・ 開会あいさつ 武田委員長あいさつ 高田教育長あいさつ</li> <li>・ 報告 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所属団体の役員変更による委員の変更について</li> <li>・ 小学校校長会から坂本博昭委員、中学校校長会から溝口秀勝委員が新たに就任</li> <li>・ 坂本博昭委員、あいさつ</li> </ul> </li> <li>・ 進行 武田委員長</li> <li>・ 報告事項</li> </ul> <p>(1) 平成 28 年度南砺市教育委員会の取り組みについて説明 事務局：(資料 1 に沿って説明)</p> <p>● 質疑応答</p> <p>委員：山村留学の導入について、こういった形で地域の振り分けをしているのか。</p> <p>事務局：利賀地域では平成元年から三年間、すべて民泊で行っていたが現在はなかなか民泊だけでは厳しくなってきた。できれば地域の宿舎を利用していくような方向で今度とも地元の方々と協議していきたい</p>

とっている。

委員：過去の事例や、施設再編も踏まえて施設を今後選別していく必要があるのではないか。

委員長：山村留学は利賀のほかに平、上平も導入検討ということなのか。

事務局：利賀地域を限定。児童生徒数の減少を食い止めるために行われている。

委員：児童数が減少していく中で、学校の統廃合は当面しないと聞いており、そのことについては保護者からも賛成の声が多数ある。一方で、中学校の部活動数への心配の声もある。小学校でスポーツ少年団に入っているものの延長で部活動ができないため、部活動のできる中学校に進学する児童もいる。それが本当に正しい姿なのか懸念している。方法として、部活動だけの統合はできないのか、スポーツクラブに委託することはできないのか、子ども達のスポーツの選択の幅を広げていただきたい。

事務局：この問題については議会などでも取り上げられている。部活の減少は問題であり、中体連は場合によっては複数校の部活動が合併しての大会出場を許可してはいるが、そのまましておくのも良くない。例えば近くの中学校同士の部活動を合併してスクールバスで移動するのも一つの手ではあるが、教育委員会が主導的に行うのも色々な弊害が出てくる。そのあたりは慎重に判断して進めていく必要がある。またPTAの方々から色々な知恵をお借りしたい。

委員長：中学校の部活数の問題は、今後も出てくると思われる。ただ、部活動は勝負が懸かっているため、エキサイトしている部分もある。PTAの意見すべてに対応するのは難しいのではないかと。

教育長：国より上がってきた文書によると、部活動の過熱化を食い止めないと、本来の教師の仕事である生徒と向き合う時間が保てない。日本の教師は世界一多忙であることから、スポーツのエキスパートの導入や、社会体育への移行なども考えに入れながら、様々な視点からこの問題を考えていかななくてはならない。文科省も危機感を持っている。

## (2) 南砺市教育委員会の組織について説明

事務局：(資料2に沿って説明)

### ●質疑応答

## (3) 平成28年度教育委員会当初予算概要について

事務局：(資料3に沿って説明)

### ●質疑応答

(4) 生涯学習(前期)事業について

事務局:(資料4に沿って説明)

(5) スポーツ関係事業について

事務局:(資料5に沿って説明)

●質疑応答

委員長:チャレンジデーについては、また来年も努力したい。

対戦相手はどうやって決めるのか。

事務局:よく似た人口を本部が選んで、パーセンテージで対決をする。羽島市は毎回非常に参加率の高い地域である。

また、近隣市町村の住民の参加によって、参加率が100%以上になった市の例もある。来年もご協力をお願いしたい。

(6) 社会教育・体育施設関係について

事務局:(資料6に沿って説明)

●質疑応答

・その他

当面の主な行事予定について

事務局:(資料7に沿って説明)

・

・閉会のあいさつ 脊戸川副委員長